

2026年3月

---



# 2025年度

# 40010チャレンジ部 ビジュアルレポート

高知大学 地域協働学部  
コミュニティデザイン研究室

---

# 構成

|               |      |
|---------------|------|
| 1.企画概要        | p.2  |
| 2.実施体制・スケジュール | p.9  |
| 3.実施報告        | p.13 |
| 3-1.スペース開放    | p.14 |
| 3-2.イベント開催    | p.25 |
| 3-3.連携プロジェクト  | p.36 |
| 4.成果と課題       | p.39 |

# 1. 企画概要

# 企画概要：40010チャレンジ部

---

## ■ 名称：

40010チャレンジ部

## ■ 回数：

スペース開放：全36回

イベント開催：全5回

プロジェクト：全11回 ※高校生と実際に活動を行った回のみを対象として記載

## 期間：

2025年8月1日～2026年3月27日

## ■ 主催・運営：

主催：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課

運営：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

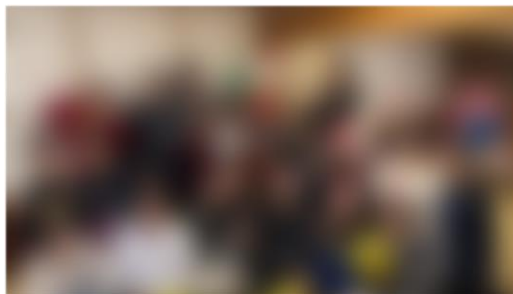
## スペース開放



挑戦の前段階として、  
自分の興味や想いを  
安心して育てられる場

- ✓ 学校や家庭とは異なる、自由に過ごせる第3・第4の居場所
- ✓ 高校生が大学生や地域の大人とゆるやかにつながる接点
- ✓ 「やってみたい」「気になる」を言葉にできる相談・対話の場
- ✓ 小さな興味や関心を受け止め、次の一歩につなげる土台

## イベント開催



地域や多様な人と出会い、  
挑戦への関心を高める入口の場

- ✓ ワークショップや交流企画を通じて、新しい価値観や地域の魅力に触れる機会
- ✓ 参加しやすい単発企画として、チャレンジの入口をつくる
- ✓ 地域の大人や他の高校生・大学生と出会い、関係を広げる場
- ✓ 「見る・聞く」だけでなく、「やってみる」経験へ背中を押す機会

## プロジェクト



地域と関わりながら、  
自分のアイデアを実践に移す場

- ✓ マップ作成、カード制作などの具体的な実践活動
- ✓ 高校生と大学生が協働しながら、企画・取材・制作・発信までを経験
- ✓ 地域資源や地域の人との関わりを通じて、学びを実践に結びつける
- ✓ 小さな成功体験や試行錯誤を重ね、「自分にもできる」という感覚を育む

※プロジェクトの詳細は別レポートにて報告

# フライヤー：スペース開放

高校生  
小・中学生  
対象



**40010**  
チャレンジ部

**“みんなの活動スペース”**  
オープン

参加費 無料    申し込み 不要    入退室 自由    本・文具 完備    大学生 常駐

**7/25** 金

**15:00-19:00**  
よりオープン

**場所：農村環境改善センター**  
※日によって部屋は変動します

主催：四万十町役場 人材育成推進センター（TEL：22-3163）  
にぎわい創出課（TEL：22-3281）  
企画・運営：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室

**何ができる？**

学校や家とはちょっと違う、自由に過ごせる  
“みんなにひらかれた場所”です。

宿題をしたり、大学生と話したり、本を読んだり、  
1人で何かに没頭したり、みんなとゲームをしたり、  
映画を見たり、誰でも気軽に来て過ごせます。

大学生が常駐しているので、宿題の手伝いや  
相談など、いつでも気軽に声をかけてください。

大学生が皆さんの“やりたい”を応援し、サポートします。

**開室について**

曜日：毎週金曜日（一部不定期開催）  
時間：10:00-16:00（夏休み期間）  
15:00-19:00（通常開室）  
場所：農村環境改善センター

**8月開室日**

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI  | SAT  |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|
|     |     |     |     |     | 1 ★  | 2    |
| 3 ★ | 4   | 5   | 6   | 7   | 8 ★  | 9    |
| 10  | 11  | 12  | 13  | 14  | 15 ★ | 16   |
| 17  | 18  | 19  | 20  | 21  | 22 ★ | 23 ★ |
| 24  | 25  | 26  | 27  | 28  | 29 ★ | 30   |
| 31  |     |     |     |     |      |      |

開室時間：  
**10:00-16:00**

夏休みの宿題は  
絵や自由研究など  
大物課題もOK！

一緒に大学生と  
取り組みましょう

**お問い合わせ**

イベント日や予定が変更になる場合は  
Instagramにてお知らせします。

企画・運営についてのお問い合わせは  
InstagramのDMにてお願いいたします。

Instagram：@40010challenge



# フライヤー：40010チャレンジ部 de Christmas

40010チャレンジ部 de  
**Christmas**

40010  
チャレンジ部

**12.24 Wed**

参加費：800円 (夕食・プレゼント代)

\\高校生対象//

1部  
14:00 - 16:00  
限定20名

\\中学生大歓迎//

2部  
16:00 - 19:00  
\\部外者不可//  
限定30名

終業式後のクリスマス。  
羽を伸ばしに来ませんか

**【開催場所】**  
四万十町農村環境改善センター 生活実習室  
(四万十町榊山町3-7)

**1部** 飾りつけ  
ケーキづくり  
クリスマスごはんづくり  
対象：窪川高校生

**2部** クリスマスごはん会  
みんなでミニゲーム【景品あり!】  
対象：窪川高校生・窪川中学生

主催：四万十町人材育成推進センター  
四万十町にぎわい創出課  
企画・運営：高知大学地域協働学部  
コミュニティデザイン研究室  
窪川高校生有志  
協力：四万十町営整 じゆうく。

お問い合わせ  
40010challenge@gmail.com  
又は  
InstagramのDMから!  
(@40010CHALLENGE)

参加申し込みはこちら

※先着順  
定員に達し次第受付終了



# フライヤー：40010チャレンジ部 de イースターエッグづくり

\\ 卵をカラフルにペイントしよう! //

40010  
チャレンジ部  
de

## イースターエッグづくり

-春分の日-

3月20日

10:00-12:00

【集合場所】  
四万十町農村環境改善センター 第2会議室  
(四万十町榊山町3-7)

【イースターエッグとは】  
イースターは、春の訪れや新しいはじまりをお祝いするイベントです。  
卵は「いのち」や「生まれること」のシンボルとされており、  
カラフルに飾った卵をイースターエッグと呼びます。

10:00-10:30 隠されたエッグ探し  
10:30-12:00 イースターエッグづくり

参加費：100円

主催：四万十町役場 人材育成推進センター/  
にざわい劇出陣  
企画・運営：高知大学地域協働学部  
コミュニティデザイン研究室

お問い合わせ  
40010challenge@gmail.com  
又は  
InstagramのDMから！  
(@40010CHALLENGE)

参加申し込みは  
こちら



# フライヤー：まちの魅力を形にしよう！マップ作成・カード作成ワークショップ

高知大生と一緒に

高校生対象!

## まちの魅力をカタチにしよう!

マップ作成・カード作成ワークショップ

「自分の町の魅力ってなんだろう」と思ったことはありませんか？  
このワークショップでは、魅力的な場所や人を自分の足でめぐり、町の魅力を再発見することができます。今回は、大学生と一緒に窪川駅周辺の町歩きとお店への取材を同時に行います。気になるコースを選んで、ぜひ一緒に町の魅力も「カタチ」にしませんか？

参加費無料

【開催場所】  
四万十町農村環境改善センター (高岡郡四万十町耕山町3-7)

【開催日時】

事前学習会①：6/6(金) 17:00-19:00 ・地域について学ぶ  
事前学習会②：6/13(金) 17:00-19:00 ・ワークショップ当日の準備  
インタビュートレーニング  
ワーク当日：6/21(土) 14:00-17:00 ・町の魅力をカタチにしよう!

▽ 選べる2つの参加コース! ▽

MACHI no SUKI na TOKO!

### まちトコマップ作成

窪川の町を歩いて、自分の“好き”な場所を発見!

写真を選んだり、気になったお店の人に話を聞いたりしながら、高校生の視点でつくるオリジナルまちマップをみんなで完成させます★

完成したマップは地域の人や観光客にも配布予定!

募集人数：先着6名

てくてく歩いて魅力を発見!

### てくてくカード作成

窪川にあるお店を取材して、お店の“魅力”を発見!

商品のこだわりや店主の想いを聞きながら、お店の魅力をたくさん詰め込んだオリジナルのてくてくカードをみんなで完成させます★

完成したカードは町内にて展示予定!

募集人数：先着9名

企画：高知大学地域協働学部 コミュニティデザイン研究室  
主催：四万十町人材育成推進センター (担当：吉村・中井)  
四万十町にすむい創出課 (担当：有田・宮本)

お問い合わせはこちら

参加申し込みはこちら

申し込み締め切り 6/5(水)

高知大生と一緒に

高校生対象!

## まちの魅力をカタチにしよう!

- カード作成イベント -

「自分の町の魅力ってなんだろう」と思ったことはありませんか？  
このイベントでは、魅力的な場所や人を自分の足でめぐり、町の魅力を再発見します。今回は、大学生と一緒に大正地域のお店へ取材を行い、お店の魅力をカードにまとめます! 作ったカードは金太郎夜市や四万十町役場にも展示予定です。一緒に地域の魅力も「カタチ」にしませんか？

参加費無料

【開催場所】  
地域交流センターたのの(4日,7日)  
大正地域振興局2階大会議室(13日)

【開催日時】

取材予定日①：7/4(金) 14:00-16:00  
取材予定日②：7/7(月) 14:30-16:30  
取材予定日③：7/13(日) 09:30-13:00

【持ち物】  
飲み物・勉強道具・昼食代(3日目のみ)

てくてく歩いて魅力を発見!

### てくてくカード作成

大正地域にあるお店を取材して、お店の“魅力”を発見!

商品のこだわりや店主の想いを聞きながら、お店の魅力をたくさん詰め込んだオリジナルのてくてくカードをみんなで完成させます★

完成したカードは金太郎夜市や役場で展示予定!

1日だけ、少しだけの参加も大歓迎!

テスト勉強もお手伝いします!

企画：高知大学地域協働学部 コミュニティデザイン研究室  
主催：四万十町人材育成推進センター (担当：吉村・中井)  
四万十町にすむい創出課 (担当：有田・宮本)

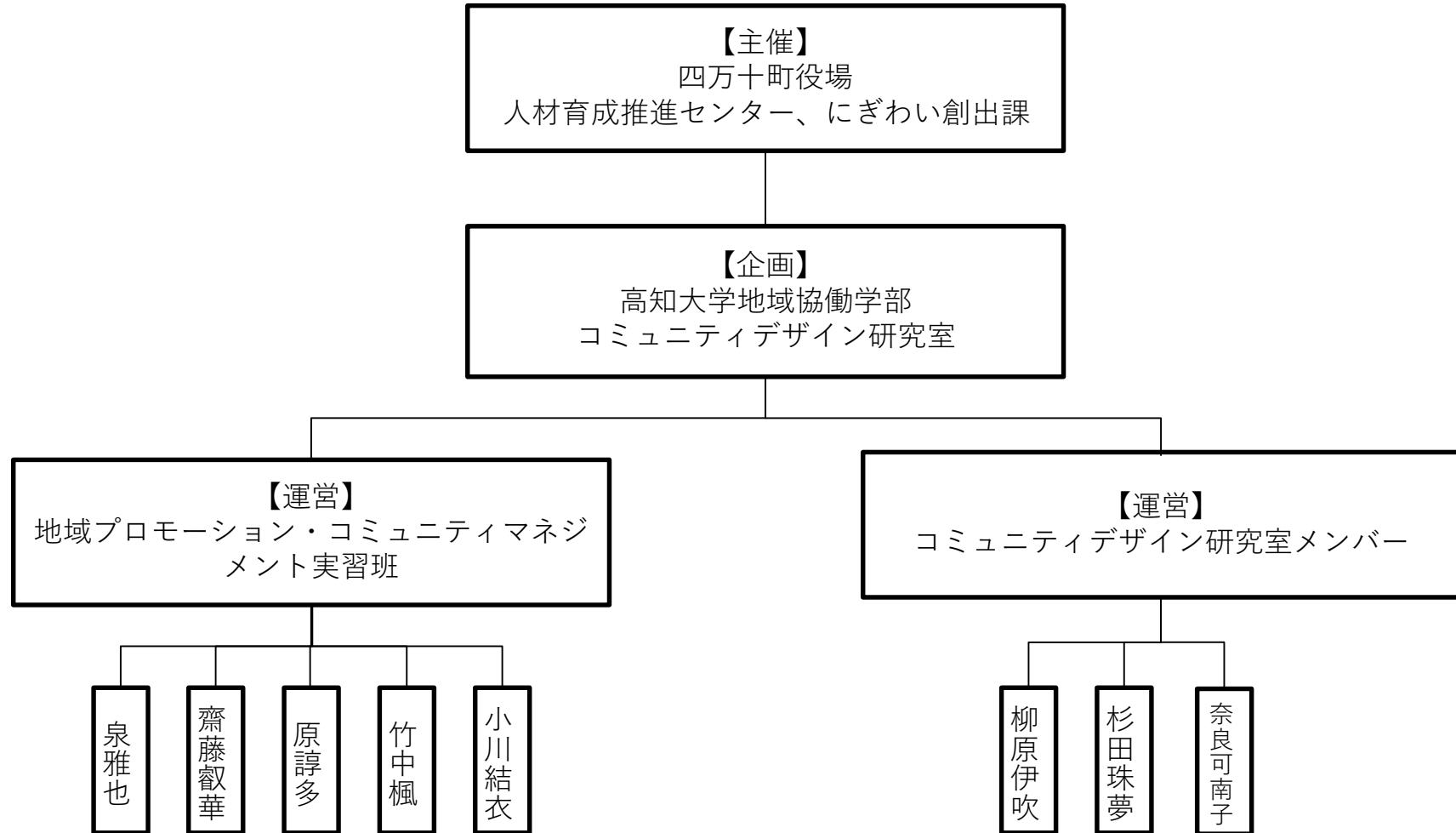
お問い合わせはこちら

参加申し込みはこちら

お問い合わせの上ご参加ください!

## 2. 実施体制・スケジュール

# 実施体制



# スケジュール：スペース開放

| 講座回     | 開室日                               |
|---------|-----------------------------------|
| 7月      | 7/25                              |
| 8月      | 8/1、8/3、8/15、8/22、8/23、8/29       |
| 9月      | 9/5、9/12、9/19、9/26                |
| 10月     | 10/3、10/7、10/10、10/17、10/24、10/28 |
| 11月     | 11/5、11/14、11/21、11/26、11/28      |
| 12月     | 12/5、12/19、12/24                  |
| 2026年1月 | 1/9、1/16、1/23、1/30                |
| 2026年2月 | 2/6、2/20、2/27                     |
| 2026年3月 | 3/6、3/13、3/20、3/27                |

# スケジュール：イベント開催

| 講座回 | 開催日   | テーマ                        |
|-----|-------|----------------------------|
| 第1回 | 8/29  | 音楽の日                       |
| 第2回 | 12/24 | 40010チャレンジ部 de Christmas   |
| 第3回 | 2/22  | 40010チャレンジ部 de Valentine   |
| 第4回 | 3/27  | 40010チャレンジ部 de イースターエッグづくり |

# 3. 実施報告

## 3-1. スペース開放

# 概要：スペース開放

---

- **名称**：40010チャレンジ部 スペース開放「みんなの活動スペース」
- **期間**：2025年7月25日～3月27日
- **回数**：全36回
- **場所**：四万十町農村環境改善センター・餃子屋Tangled
- **主催**：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- **運営**：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）
- **概要**：

本事業は、高校生が家庭や学校以外で安心して過ごせる「サードプレイス」を地域につくり、大学生や地域の大人との交流や対話を通して、多様な価値観に触れながら自己理解や主体性を育むことを目的とした取り組みである。

本スペースは、自由に過ごせる居場所としての機能に加え、交流・学び・相談・創作・小さな挑戦を支える場として機能し、異年齢や地域との関わりの中で新たな気づきや行動のきっかけを生み出す役割を担っている。

# 7月開室

7月は、7月25日に農村環境改善センター第2・3会議室にてスペース開放を実施した。参加人数は、月合計で小学生16名、中学生1名、高校生2名、運営大学生12名であった。初回はプールに通う子どもたちの中での口コミを中心に来室があり、宿題を済ませた後、ぬりえや黒板への落書き、紙飛行機づくりなど、それぞれが自由に活動しながら大学生と関わる様子が見られた。特に、一つのぬりえを複数人で仕上げるなど、自然発生的な協働が生まれており、場の共有が交流のきっかけとなっていた。また、特定のプログラムを設けずとも、子どもたちがその場にあるものを活用しながら遊びを展開していた点から、本取り組みが目指す「自由に過ごせる居場所」としての機能が一定程度発揮されていたと考えられる。今後は、このような自然な関わりを維持しつつ、より多様な層の来室を促す仕組みづくりが求められる。



会場設営



初めは宿題タイム



ぬりえタイム



一つの絵を使ってみんなでぬりえ



絵の具やクレヨンで塗る様子



紙飛行機を飛ばす様子

# 8月開室

8月は、8月1日、3日、15日、22日、23日、29日に開室を行い、農村環境改善センター第2・3会議室、大会議室、多目的ホールにて活動を実施した。参加人数は、月合計で保育園児1名、小学生17名、高校生5名、運営大学生16名、一般2名であった。活動内容としては、宿題やぬりえ、カードゲームなどの日常的な関わりに加え、タブレットを活用した調べ学習や創作活動など、子どもたちの興味関心に応じた多様な過ごし方が見られた。また、継続的に参加する子どもも見られ、大学生との関係性が少しずつ築かれていく様子も確認された。加えて、8月8日にはじゆうく。の高校生とともに水遊びを行う場面もあり、異年齢での交流が生まれたほか、8月29日には多目的ホールで音楽体験企画を実施し、楽器に触れたり歌ったりする体験の機会をつくることができた。一方で、お盆期間や土曜開催では来室者がいない回もあり、時期や曜日によって参加状況に差があることも明らかとなった。そのため、開催設定や周知方法については引き続き工夫が必要である。



ホワイトボードに落書きをする様子



宿題に取り組む様子



シャトルランをする様子



協力隊・国沢さんと子どもたち



八島さんにコード弾きを習う様子



水風船を的に当てる子どもたち

# 9月開室

9月は、9月5日、12日、19日、26日に農村環境改善センター大会議室にて開室を行った。参加人数は、月合計で運営大学生10名であり、来室者は見られなかった。この状況を踏まえ、9月は場の開放そのものに加えて、認知拡大および参加促進に向けた準備・改善に重点を置いた。具体的には、Instagramでの開室カレンダーの発信やチラシ配布、スペース紹介カードの作成など、高校生へ直接アプローチする方法を検討した。また、ゲームセットやポッチャ、モルックといった新たな備品を追加し、来室時の体験価値の向上も図った。さらに、駅前や役場周辺など、高校生や子どもたちの動線上での開催の必要性が共有され、出張型での実施の可能性も検討された。9月は参加者数としては伸びなかったものの、今後の運営改善に向けた方向性を整理する月となった。



導入したゲームを試す大学生



ポッチャ



入口に設置した看板



モルック



ゲームボード



物品設置の様子

# 10月開室

10月は、10月3日、7日、10日、17日、24日、28日に開室を予定・実施し、農村環境改善センター大会議室および餃子屋Tangledを会場として活動を行った。参加人数は、月合計で小学生2名、高校生1名、大学生11名、一般1名であった。特に、10月7日に実施した餃子屋Tangledでの開室は、駅前という立地を活かした試験的な取り組みであり、従来の会場とは異なる環境での実施となった。過去の活動参加者である高校生が立ち寄る場面もあり、継続的な関係性の広がり確認された。また、10月10日の開室では、小学生が来室し、大学生とともに宿題やポッチャ、ビリヤードなどに取り組み、学習と遊びの両面から交流が生まれた。一方で、来室者がいない回もあり、開催場所や時間帯、広報方法については引き続き検討が必要である。10月は、出張開催の可能性を試しながら、今後の運営の在り方を探る月となった。



餃子屋Tangled 店舗前の様子



大学生とポッチャをする様子



設置したカードゲーム



ルールを変えて再チャレンジする様子



店内の様子



ビリヤードに挑戦

# 11月開室

11月は、11月5日、14日、21日、26日、28日に開室を行い、農村環境改善センター大会議室および餃子屋Tangledを会場として活動を実施した。参加人数は、月合計で小学生2名、中学生5名、高校生2名、運営大学生13名であった。通常開室では、これまで継続的に利用している小学生の来室が見られ、日常的な居場所としての利用が徐々に定着しつつある様子が確認された。また、「まちの魅力をカタチにしよう」のマップ作成プロジェクトに関わる高校生が、打ち合わせの場として開室日に訪れ、スペースを活用する場面も見られた。さらに、餃子屋Tangledでの開室では、テスト期間中の中学生が役場前で過ごしているところに声をかけ、利用を促した。実際に利用した中学生からは、Wi-Fiが使える場所が限られている中で、室内で友達とゲームをしながら過ごせることへの前向きな反応が聞かれ、「このような場所があることを知らなかった」との声もあった。立地や機能を活かした新たな利用ニーズの可能性が確認された月であった。



設置している書籍



備品設置の様子



宿題に取り組む小学生



ルールを変えて  
再チャレンジする様子



餃子屋Tangledでの開室の様子



入り口に設置した看板

# 12月開室

12月は、12月5日、19日、24日に開室を行い、農村環境改善センター大会議室にて活動を実施した。参加人数は、月合計で中学生5名、高校生11名、運営大学生15名であった。通常開室日においては来室者が見られなかったが、イベントとして実施した「40010チャレンジ部 de Christmas」では、多くの高校生および中学生の参加があった。イベントを通じて、本取り組みを知ってもらう機会となるとともに、同世代同士での交流や関わりが生まれる場を創出することができた。日常的な利用には直結しなかった一方で、イベント形式での実施が認知拡大や参加のきっかけづくりに有効であることがうかがえた月であった。引き続き、単発イベントを実施し、この場へ足を運んでもらう機会を定期的に設けていく。その反面、イベント時の盛り上がり通常開室へとつなげる導線は十分ではなく、単発参加にとどまる傾向が見られた。今後は、イベント参加者に対して次回開室日の案内をより丁寧に行うなど、継続的な利用につなげるためのフォローが必要である。



イベントの説明の様子



会場の飾り付けの様子



仕込みを行う大学生



下処理をする様子



ピザを焼く様子



一室に用意した通常開室の部屋

# 2026年1月開室

2026年1月は、1月9日、16日、23日、30日に開室を行い、農村環境改善センター大会議室にて活動を実施した。参加人数は、月合計で小学生2名、運営大学生7名であった。通常開室では、継続的に利用している小学生の姉弟が来室し、宿題に取り組んだ後、ポッチャなどの遊びを通じて運営大学生と交流する様子が見られた。また、絵を描いたり、設置している素材を活用してボールを作るなど、子どもたち自身が工夫しながら新たな遊びを生み出している姿も印象的であった。継続的な来室者との関係性の中で、主体的な活動や創造的な遊びが生まれており、居場所としての機能がより深まっている様子が確認された。一方で、利用者が固定化している面もあり、新たな来室者の広がりや限定性であった。安心して過ごせる場としての良さを維持しつつ、初めての利用者も入りやすい雰囲気づくりや周知方法について、引き続き検討していく必要がある。



設置している書籍



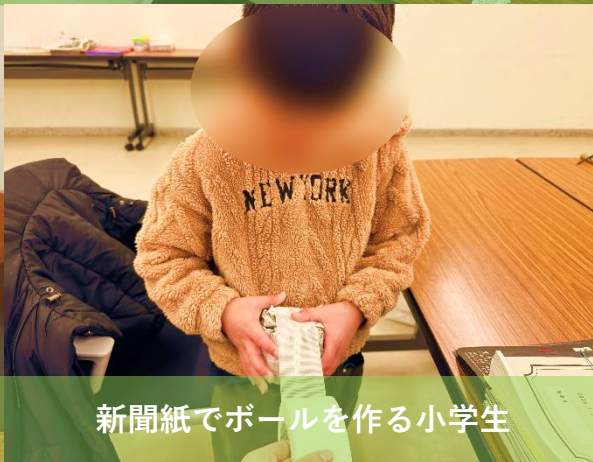
ペイントを行った様子



会場全体の様子



設置した映画作品



新聞紙でボールを作る小学生



入り口に設置した看板

# 2026年2月開室

2026年2月は、2月6日、20日、27日に開室を行い、農村環境改善センター大会議室および第2・3会議室にて活動を実施した。参加人数は、月合計で小学生3名、高校生6名、運営大学生7名であった。通常開室では、これまで継続的に利用している小学生の姉弟が来室し、日常的な関わりが継続して見られた。また、「40010チャレンジ部 de Valentine」と題したイベントを実施し、高校生が複数名参加した。当日はテスト期間中であったことから、バレンタインチョコづくりを楽しみながら、学習にも取り組む機会として企画を行った。イベントを通じて、高校生同士の交流や、学びと楽しさを両立する場づくりにつながった月であった。一方で、イベント参加者がその後の通常開室にも継続して参加する流れをつくることは十分ではなかった。また、企画内容によって参加しやすい層に偏りが生じる可能性もあるため、今後は多様な関心に応じた企画づくりと、通常開室との接続を意識した運営が求められる。



参加した小学生



バレンタインイベントの様子



協力して作る高校生



チョコレートを流し込む型



フリートークで交流する参加者



開室準備の様子

# 2026年3月開室

2026年3月は、3月6日、13日、20日、27日に開室を行い、農村環境改善センター大会議室および第2・3会議室にて活動を実施した。参加人数は、月合計で保育園児1名、小学生4名、一般1名、運営大学生8名であった。通常開室では運営大学生のみの参加となる回もあり、日常的な来室者は限られていた。一方で、「40010チャレンジ部 de イースターエッグづくり」を実施し、小学生の参加があった。イベントでは、隠されたエッグを探す活動や、絵の具を使ったペイントを行い、子どもたちは自由な発想で思い思いに制作を楽しんでいた。加えて、保育園児の参加も見られ、年齢の異なる子どもたちがそれぞれのペースで場に関わる様子がうかがえた。イベント形式での場づくりの有効性が改めて確認された月であった。一方で、通常開室における利用者の少なさは引き続き課題であり、イベント時のみの参加で終わらせないための働きかけが必要である。また、メインターゲットとして想定していた高校生の参加は無く、高校生を中心とした場づくりにはなお課題が残った。



黒板に漢字問題を書く小学生



手形ペイントの作品



ボードゲームに挑戦する様子



黒板アートを行う様子



イースターイベントの様子



イースターエッグ作品

## 3-2. イベント開催

# イベント概要：金太郎夜市 おむすび出店

---

- **名称**：金太郎夜市 おむすび出店
- **日時**：2025年7月18日
- **場所**：四万十町農村環境改善センター ・ 金太郎夜市会場（四万十町本町）
- **主催・運営**：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）
- **協力**：四万十町役場 人材育成推進センター ・ にぎわい創出課
- **概要**：

本企画は、高知大学の実習生が主催し、個人プロジェクトとして企画・運営したものであり、地域の食材の魅力や背景にあるストーリーを学び、それを来場者に伝えることを目的として実施した。実習生は事前に地域事業者への取材を行い、食材への理解を深めた上で、おむすびの販売という形でその価値を発信することを狙いとした。また、高校生も販売活動に関わることで、地域資源への理解を深めるとともに、実際に「伝える・売る」という体験を通して、コミュニケーション力や主体性を育む機会とすることを目的とした。

# 金太郎夜市 おむすび出店

7月18日は、「金太郎夜市 おむすび出店」を実施した。本企画は、本事業の一環として行われたものであり、高知大学の実習生による個人プロジェクトとして大学生が主催、そして企画・運営を担い、役場の協力を得ながら実施した。本プロジェクトは、「食材の魅力や背景にあるストーリーを学び、それを来場者に伝えること」を目的としており、実習生が事前に平野協同畜産および井上靴店を訪問し、食材の特徴や生産の背景について取材を行った。その学びをもとに、地域食材を活用したおむすび販売を企画し、当日はイベント冒頭に、高校生に対してこれまでの経緯や想い、プロジェクトのねらいを共有した。その後、大学生がおむすびを作り、高校生はポップづくりや当日の販売を主に担った。販売の場では、当初は声の掛け方や来場者への接し方に苦戦する様子も見られたが、次第に積極的に売り込む姿が見られるようになり、最終的には完売に至った。地域食材への理解を深めるとともに、「伝えること」や「販売すること」を実践的に学ぶ機会となった。



取材時の様子



当日販売したおむすび



高校生が作成した看板



参加した高校生



店頭に並ぶ高校生



店頭を整える様子

# イベント概要：音楽の日

---

- 名称：音楽の日
- 日時：2025年8月29日
- 場所：四万十町農村環境改善センター 多目的ホール
- 主催：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- 運営：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）
- 概要：

子どもたちが楽器に触れたり、音を鳴らしたり、歌ったりする体験を通して、普段の開室とは異なる表現や交流の機会を提供することを目的として実施した。

本企画は、地域の協力者や運営大学生との関わりの中で、子どもたちが自由に音楽を楽しみながら新たな興味関心を広げる場となるとともに、体験を通じて他者と関わるきっかけを生み出す機能を果たした。

# 音楽の日

8月29日は、農村環境改善センターにて「音楽の日」を実施した。四万十町地域おこし協力隊の国沢桃子さんと連携し、音楽企画を実施した。アコースティックギター2本、エレキギター3本、エレキベース2本、マイク1本を用意し、子どもたちが自由に楽器に触れられる環境を整えた。午前中は、いつも来てくれている小学生4名が参加し、ギターやベースに実際に触れ、音を鳴らす体験を楽しんだ。午後からは「四万十手づくりの里」の矢島博さんがギター講師として来室し、子どもたちは矢島さんの伴奏で歌を歌ったり、コード弾きや単音でのメロディ演奏を体験した。コードを押さえることは難しかったが、それぞれが工夫しながら挑戦していた。一方で、楽器や音の出し方に慣れていない参加者もあり、活動の導入や関わり方に工夫の余地が見られた。今後は、より参加しやすい進め方や簡単なルールづくり、テーマ設定などを取り入れることで、初めての参加者でも入りやすい場づくりを検討していく必要がある。また、単発の体験にとどまらず、継続的な関わりや他の活動への接続を意識した企画設計も課題として挙げられる。



協力隊の国沢さんと子どもたち



矢島さんにコード弾きを習う様子



小学生は単音弾きに挑戦



合間の様子



サイトで調べる様子



シャトルランをする様子

# イベント概要：40010チャレンジ部 de Christmas

---

- 名称：40010チャレンジ部 de Christmas
- 日時：2025年12月24日
- 場所：四万十町農村環境改善センター 調理実習室
- 主催：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- 運営：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）
- 概要：

本イベントは、通常のスペース開室とは別に実施した単発企画であり、中学生・高校生が気軽に参加できるきっかけをつくるとともに、「40010チャレンジ部」の活動や居場所としてのスペースを知ってもらうことを目的として実施した。

「クリスマスと食」をテーマに、学年や学校の枠を越えて交流し、協力しながら一つのことに取り組む体験の場をつくることで、今後の継続的な関わりや通常開室への参加につなげることを狙いとした。

# 40010チャレンジ部 de Christmas

12月24日は、「40010チャレンジ部 de Christmas」を開催した。当日は2部構成で実施し、第1部では高校生を中心に、ピザづくりやクリスマスケーキづくりを行った。生地づくりやトッピング、焼き上げなどを分担しながら、参加者同士が声をかけ合い協力して作業を進める様子が見られた。完成した料理を前に、達成感や喜びの声も多く聞かれた。第2部では中学生も合流し、完成した料理を囲んでの交流の時間を設けた。食事を共にする中で自然と会話が生まれ、学年を越えた関わりが見られたほか、その後のビンゴ大会などのミニゲームを通して、終始和やかな雰囲気での交流が行われた。本イベントを通して、普段は関わる機会の少ない異なる学年・学校の参加者同士が自然に交流する様子が見られ、安心して過ごせる居場所としての機能が発揮された。また共同作業を通じて協力する経験や、他者との関わりの中で新たな気づきを得る機会となった。一方で、イベント時には多くの参加が見られる一方で、通常開室への継続的な参加につなげる導線は十分とは言えなかった。今後は、イベント参加者に対して継続的な関わりを促す仕掛けや、日常的な利用につなげる工夫が求められる。



初めの説明を行う運営大学生



飾り付けの様子



協力して作る高校生と大学生



交流の様子



プレゼントを選ぶ様子



記念撮影

# イベント概要：40010チャレンジ部 de Valentine

---

- 名称：40010チャレンジ部 de Valentine
- 日時：2026年2月22日
- 場所：四万十町農村環境改善センター 調理実習室
- 主催：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- 運営：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）
- 概要：

本イベントは、通常のスペース開室とは別に実施した単発企画であり、高校生が気軽に参加できるきっかけをつくるとともに、「40010チャレンジ部」の活動や居場所としてのスペースを知ってもらうことを目的として実施した。

テスト期間中という状況を踏まえ、「勉強と息抜きの両立」をテーマに、チョコレートづくりを通じた交流の場を設けることで、参加者同士の関わりやりフレッシュの機会を創出し、今後の継続的な参加につなげることを狙いとした。

# 40010チャレンジ部 de Valentine

2月22日は、「40010チャレンジ部 de Valentine」イベントを実施した。本イベントは、通常のスペース開室とは別に実施した単発企画であり、中学生・高校生にチャレンジ部の活動を知ってもらい、今後の通常開室への参加につなげることを目的として行った。当日はテスト期間中であったことから、勉強の合間の息抜きとして参加できる場づくりを意識し、チョコレートづくりを中心とした活動を行った。参加者は、学習に取り組みながらも、適度に手を動かしながらチョコづくりを楽しみ、リラックスした雰囲気の中で交流する様子が見られた。また、共同作業を通して自然と会話が生まれ、学年を越えた関わりや新たなつながりが生まれる場となった。普段の学習中心の時間とは異なり、「楽しみながら過ごせる場」としての価値が感じられる機会となった。一方で、イベント参加者がその後の通常開室へと継続的に参加する流れは十分とは言えず、単発の参加にとどまる傾向も見られた。今後は、イベントをきっかけとした関係性を継続的な利用につなげるための声かけや導線づくりが課題として挙げられる。



バレンタインイベントの様子



協力して作る高校生



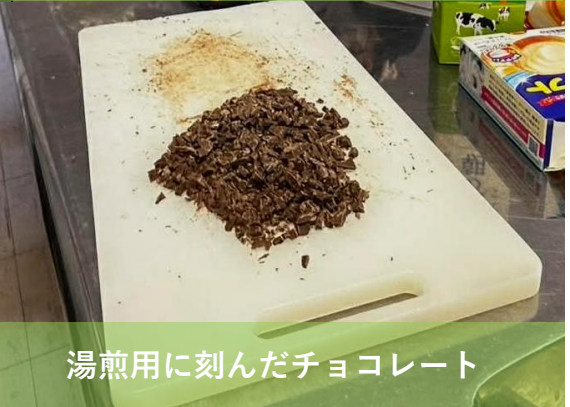
流し込む型の準備



分担しながら作る様子



材料を混ぜる様子



湯煎用に刻んだチョコレート

# イベント概要：40010チャレンジ部 de イースターエッグづくり

- 名称：40010チャレンジ部 de イースターエッグづくり
- 日時：2026年3月20日
- 場所：四万十町農村環境改善センター 第2・3会議室
- 主催：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- 運営：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）
- 概要：

本イベントは、通常のスペース開室とは別に実施した単発企画であり、高校生や町内の子どもたちが気軽に参加できるきっかけをつくるとともに、「40010チャレンジ部」の活動や居場所としてのスペースを知ってもらうことを目的として実施した。

「イースター」をテーマに、エッグ探しとペイント体験を組み合わせた活動を行うことで、親子で楽しみながら参加できる交流の場を創出し、今後の継続的な関わりや通常開室への参加につなげることを狙いとした。

# 40010チャレンジ部 de イースターエッグづくり

3月20日は、「40010チャレンジ部 de イースターエッグづくり」を実施した。本イベントは、通常のスペース開室とは別に実施した単発企画であり、高校生ほか、町の子どもたちにも本活動を知ってもらい、今後の関わりにつなげることを目的として行った。当日は小学生親子の参加があり、エッグ探しから活動をスタートした。会場内に隠されたエッグを探す中で、親子で協力しながら楽しむ様子が見られ、自然と会話や関わりが生まれていた。その後、見つけたエッグに絵の具を使って自由にペイントを行い、それぞれが思い思いのデザインで制作に取り組んでいた。ペイントの時間では、色の組み合わせや模様を工夫しながら、集中して取り組む姿や、完成した作品を見せ合う様子が見られ、創作を通じた楽しさや達成感を感じられる機会となった。また、親子で一緒に取り組むことで、家庭とは異なる場での関わりや体験の場としても機能していた。一方で、イベント参加が単発で終わる傾向も見られることから、今後はこうした体験をきっかけに継続的な来室や関わりにつなげていくための導線づくりが課題である。特に、保護者への周知やフォローも含め、継続的な関係構築に向けた工夫が求められる。



エッグを隠す小学生



隠されたエッグを探す様子



エッグにペイントする様子



完成したエッグ



様々な色を混ぜてペイント



クレヨンで色付けしたエッグ

## 3-3.連携プロジェクト

# 連携プロジェクト概要：大正地域 居場所づくり

- **名称**：大正地域 居場所づくり
- **期間**：2025年7月22日～2026年1月21日
- **場所**：Ekimaehouse SAMARU（四万十町大正238-2）
- **主催**：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）
- **協力**：四万十町役場 人材育成推進センター・にぎわい創出課
- **概要**：

本プロジェクトは、大正地域において高校生を中心とした子どもの居場所を創出することを目的に、高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室の学生と地域住民とが主導して企画・運営する取り組みである。

チャレンジ部の活動が主に窪川地域での実施であったことを踏まえ、大正地域における新たなアプローチとして展開されたこのプロジェクトと本事業が連携し、四万十町役場の協力のもと、地域拠点（Ekimaehouse SAMARU）を活用しながら実施された。

本取り組みでは、放課後に安心して過ごせる場を提供するとともに、高校生の「やってみたいこと」や興味関心に対して大学生が伴走し、地域の中で挑戦や活動が生まれる環境づくりを目指している。また、大学生との関わりを通して、高校生が地域での可能性や将来の選択肢に気づくことも狙いとしている。

# 大正地域 居場所づくり

本研究室の学生と地域住民が主催となって企画・運営を行い、本事業が連携し、役場の協力を得ながら進めた。実施にあたっては、Ekimae House SAMARUを拠点に、高校生を中心としながら小中学生や地域住民も含めた居場所の運営を行った。40010チャレンジ部にとっては、これまでアプローチが難しかった地域での展開という点で、新たな実践の場となった。活動では、自由に過ごせる空間として開放しつつ、訪れた子どもたちの興味関心に応じて大学生が関わった。放課後の開室では、宿題への付き添いやゲーム、雑談、相談などを通して、もともとその場を利用していた小学生との関係構築が進められた。また、居場所づくりの立ち上げ段階では、拠点となる建物内でのペイントイベント等も実施し、子どもたちが自由な創作を通して自分たちの空間をつくる機会が設けられた。



放課後、子どもたちが集う様子



木材にペイントする様子



ゲームをする子どもたち



ペイントイベントの様子



手形など自由にペイントを行った



ペイント終了後の拠点内部

## 4.成果と課題

## 成果と課題

---

### ■ 継続的な開室を実現できたこと

→固定の曜日での開室を維持したことで、一定の認知の広がり、「行けば開いている場所」という認識を持つ層が現れたこと。

### ■ イベントを通じた新規参加者の獲得

→クリスマスやバレンタイン等の単発イベントをきっかけに、これまで接点のなかった中高生に活動を知り、体験してもらう機会を創出できた。参加のハードルを下げる入口として一定の効果が見られた。

### ■ 大学生との関わりによる学び・体験の創出

→日常的な関わりや企画を通して、学校外での対話や体験の機会を提供できた。特に、販売活動やワークショップなどでは、「伝える」「やってみる」といった実践的な経験につながった。学校や家庭で体験・経験できない学びを提供できた。

## 課題

---

### ■ メインターゲットである高校生の参加が限定的

→利用者の中心が小学生や一部の固定メンバーに偏り、高校生の継続的な参加には十分につながらなかった。高校生の生活動線や関心に即した設計、効果的で十分な周知が不十分であった。

### ■ 単発イベントから継続利用への接続が弱い

→イベント時には一定数の参加が見られる一方で、その後の通常開室への参加につながるケースは限定的であった。関係性を継続させるための導線設計やフォローが不足している。

### ■ 場の機能や価値の伝達不足

→「何ができる場所なのか」「どんな人にとって価値があるのか」が十分に伝わりきっておらず、認知は広がりつつも利用につながらないケースが見られた。結果として、潜在的なニーズを取りこぼしている可能性がある。

### ■ 参加のハードル設計が不十分

→「誰でも来てよい場」として設計している一方で、初めての参加者にとっては入りづらさや目的の不明確さが残り、来室のきっかけにつながりにくい側面があった。特に高校生にとっては、「なぜ行くのか」「行くと何が得られるのか」が見えにくく、結果として参加につながらない要因となっている可能性がある。

# お問い合わせ

- **四万十町役場**

- 人材育成推進センター**

- 担当：吉村・中井

- 〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榊山町3番7号

- E-mail：103060@town.shimanto.lg.jp

- TEL：0880-22-3163 FAX：0880-22-3345

- にぎわい創出課**

- 担当：有田・宮本

- 〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

- E-mail：syoko-koyo-40010@town.shimanto.lg.jp

- TEL：0880-22-3281 FAX：0880-22-5040

- **高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)**

- 担当：准教授 須藤順

- 〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

- Web：https://www.communitydesign-kochi.jp/

- E-mail：j.suto@kochi-u.ac.jp

- TEL：088-888-8077 FAX：088-888-8043

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。